

# 辺野古通信

第43号 2015年1月9日



10/19 高江



10/20 辺野古

発行: 沖縄の自立解放闘争に連帯し、反安保を闘う連続講座(沖縄講座@横浜)  
沖縄講座 HP <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~okinawa-koza/>

## 沖縄の民意を踏み潰すな！ 辺野古の埋立を阻止せよ！

■「ウチナーンチュのアイデンティティや自決権という思いを意思表示した1年だった」(稲嶺名護市長の年頭挨拶) — これは沖縄の誰もが抱いた感慨ではないか。沖縄の人々は、昨年1月の名護市長選挙から9月の名護市議選、11月の県知事選挙、そして安倍政権の党利党略で降って湧いた12月衆議院選挙(沖縄選挙区)と続いた政治戦を全て勝ち抜いて、日本国家の操り人形と化した仲井真知事を追放し、辺野古新基地建設 NO の揺るぎない〈民意〉を日米両政府に突きつけた。

■確かに、12/14 投開票された衆議院選挙では自民党が現有議席を減らしたものの公明党と合わせて衆議院の3分の2の安定多数を辛うじて維持。政権与党に有利な選挙制度と野党の分散状況、史上最低の投票率に助けられ、安倍の思惑通りの結果となった。しかし沖縄では翁長新知事を誕生させた「オール沖縄」の政治勢力が、4つの全選挙区で自民党候補を叩き落とした。この揺るぎない〈民意〉は、強大な権力—世界最強の軍隊と日本国家権力(防衛省・警察・海保)の暴力と対峙し続ける普天間・辺野古・高江の長期持続の不服従抵抗闘争・直接行動を背景に形成されたものであり、旧来の保革構造を突き崩す新たな政治勢力を登場させた。■沖縄のこの巨大な地殻変動を日米両政府は見て見ぬふりをしているように見える。安倍は選挙結果を受けて「辺野

古移設が唯一の解決策という考えに変わりはない」と居直った。菅は「辺野古移設反対の民意が示されたのでは」という記者の質問に「過去に賛成してくれた県知事、市長もいた。これも一つの民主主義ではないか。」と驚くべき発言をしている。これがヤマトのどこかの都道府県のことだとしたら、同じことが言えるだろうか。さらに安倍官邸も政権与党も就任挨拶に上京した翁長新知事との面会要請を拒否して逃げ続けるという醜態を晒し、沖縄振興予算の削減をもちらつかせている。■仲井真前知事は退任直前に埋立工事変更申請の一部(3件の内2件)を駆け込み承認した。防衛局は、近日中にも深場のボーリング調査に向けた作業を再開し、300m規模の「仮設岸壁」の建設工事を強行しようとしている。この「仮設岸壁」は海底に大型ダンプ5000台分の石材を敷き、石の詰まった網を海面まで積み上げるというもので、実質的な大浦湾の埋め立てだ。これを許してはならない。■私たちは10月横浜集会11月神奈川行動等でカンパを集めるとともに、10月11月と短期間ながら辺野古現地に駆けつけてゲート前行動にも参加してきた。1月25日の国会包囲ヒューマンチェーンも全力で取り組む。多くの参加を！ ■辺野古・高江カンパは累計1,598,166円(1月9日現在)。引続きカンパを！ 郵振 00210-O-2021 沖縄連続講座

### 辺野古に基地はつくらせない！ 1.25国会包囲ヒューマンチェーンへ

日本政府が沖縄の民意を無視しようとしているいま、日本(ヤマト)の側でも声を上げ、辺野古にも高江にも基地は造らせないという私たちの意思表示を！

- 1月25日(日)14時—15時 国会周辺(正門向かいの通りに集合)
- 主催:「1.25国会包囲ヒューマンチェーン」実行委員会

# 12/24県議会決議・意見書携へ、県議団代表が東京行動

年明け後も、安倍政権は沖縄の民意を踏み潰して、新基地建設を強行しようとする姿勢を強めている。年末にも就任挨拶に上京した翁長新知事との面会を回避し続けた安倍官邸は、2015年度予算案の決定前に上京した翁長知事とも面会を拒否し、沖縄振興予算を大幅に減額しようとしている。「対話すら拒む政権の姿勢は、選挙で示された沖縄の民意を敵視するのに等しく、到底受け入れられない。」(1/9 沖縄タイムス社説「品位のない対応を憂う」)。

一方で、辺野古・高江における反対行動の暴力的排除をチラつかせている。

辺野古では15日にも海上作業を開始してフロートをこれまでより沖合に広げる形で設置、カヌーや船で簡単に乗り越えられないように改良し、コンクリートブロックで固定すると報道されている。(1/7 沖縄タイムス) ゲート前でも海上でも、激しい攻防が予想される。

高江では、監視テントと車両によるバリケード封鎖を排除するために、1990年から日米の共同使用区域となっている県道の路側帯を米軍専用区域に変更して強制的な手続き(1月中にも裁判所へ仮処分申立)を進めようとしている。(1/1 琉球新報)

このような緊迫した状況の中で、1月15日に沖縄県議会要請団(与党・中立会派12名)が県議会決議・意見書を日米両政府に手交するために上京する。15日夜に連合会館で集会も予定されている。

## 1月15日(木)18時半 連合会館

### 県民の民意を尊重し、辺野古新基地建設断念を求める意見書

1月16日投票の沖縄県知事選挙は、辺野古に新基地建設を許すのか阻止するのかが最大の争点として行われ、「あらゆる手法を駆使して新基地はつくらせない」とする翁長雄志新知事が、辺野古移設容認の前知事に約10万票の大差をつけて勝利した。続く、12月14日に行われた衆議院選挙でも沖縄選挙区の4選挙区全ての選挙区で「辺野古への新基地建設に反対する」候補者が勝利した。さらに、1月の名護市長選挙、9月の名護市議会議員選挙でも「辺野古への新基地建設に反対する」候補者が勝利したことは、沖縄県民圧倒的多数の民意が揺るぎないものであることが示された。

国土面積のわずか0.6%の沖縄県に米軍専用施設の74%が押しつけられ、米軍基地あるがゆえの事件・事故に苦しめられてきた沖縄県民は、政府が進める普天間基地の県内移設に強く反対し、断念を求めるものである。

我が国は民主主義国家として世界にその範を示すべき立場であり、たとえ一県とはいえ、沖縄県民大多数の民意を押し潰すようでは民主主義国家としてその根本が問われるのではないかと。私たち県民は、昨年1月28日に安倍総理に提出した建白書を総意として「オスプレイの配備撤回、普天間基地の閉鎖・撤去、辺野古移設断念」を強く求めてきた。

よって、沖縄県議会は県民の総意に基づき下記のことを強く要請する。

記

- 1 沖縄県知事選挙等での民意を重く受けとめ、辺野古新基地建設を断念すること。
- 2 沖縄県知事選挙等の結果を受け、普天間基地の閉鎖・撤去についてアメリカ政府と速やかに交渉すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成26年12月24日  
沖縄県議会

内閣総理大臣

外務大臣・防衛大臣・沖縄及び北方対策担当大臣 宛て

# 沖縄講座ブログ記事（11月～）から

昨年6月26日から沖縄講座のブログを再開しています。<http://okinawakoza.at.webry.info/>  
「再開」と言っても3年前に開設して書評を1回掲載して中断していたので、実質的には昨年6月  
がスタート。沖縄講座のHP <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~okinawa-koza/> からもアクセス可。  
11月からの動きをブログの記事から抜粋して紹介します。

## 安倍政権にNO！神奈川行動（11/10の記事）

11月8日と9日、戦争準備に突き進む安倍政権にNO！を神奈川行動が展開された。神奈川県内で  
基地問題や原発、沖縄、秘密保護法など様々な課題で活動する市民団体が実行委員会をつくり準備した。  
8日の講演集会は約150人が集まった。組織動員のない市民団体の手作りの集会としてはよく集まった  
と言える。



主催者挨拶のあと、神奈川平和運動センター、九条かながわの会から連帯挨拶があり、東京新聞の半  
田滋さん、首都大学東京の木村草太さんから講演があった。

半田さんの演題は「集団的自衛権容認、日米ガイドライン見直しの先に安倍政権が狙うものは？」。  
半田さんは、安倍がある対談で語ったという「軍事同盟というのは、血の同盟です。アメリカは日本  
を守るために血を流すのに、日本は流さない。これで対等なパートナーシップと言えるのか。我々の責  
務は、日米安保条約を総務的な条約に変えていくことだ。」という発言を紹介し、「安倍が集団的自衛権  
行使にこだわる理由の一つがここにある」と指摘した。そして解釈の幅がある7.1閣議決定の内容を、  
日米ガイドラインの見直しの中で決めようとするのを批判し、結論として、「自衛隊の戦死者はいない。  
訓練で亡くなった人は1840人。米軍は戦後戦争を続けてきて、10万人も戦死者を出している。  
集団的自衛権の行使を認めるということは自衛官が死ぬということ。我々は安倍さんに白紙委任状を与  
えたのか。そんなことはない。これはガイドラインの見直しよりも前に、国会で改正される法律の中身  
をしっかりと議論した上で、閣議決定さえもやり直すことが必要になるのではないか。」と結んだ。

半田さんの講演のあと、司会から辺野古の新基地建設反対闘争の支援カンパが呼びかけられた。沖縄  
講座は会場の後方に辺野古の写真パネルや沖縄の地元紙の号外などを掲示して辺野古の問題を訴えた。  
会場カンパは50881円集まった。（中略）

二人の講演のあと、沖縄と原発の特別アピールが続いた。沖縄については一坪反戦地主会関東ブロッ  
ク共同代表の大仲尊さんから辺野古の状況、県知事選、与那国島の自衛隊施設建設問題について訴えが  
あった。原発については福島原発かながわ訴訟を支援する会事務局長の水沢靖子さんから報告があった。



翌日の日曜日は心配された雨も上がり、約150人でみなとみらい地区をデモ行進。ラップに合わせて  
コールする若者グループを先頭に、安倍倒せのプラカードを掲げて賑やかにアピールした。

## 国会正門前で辺野古アピール（11/13の記事）

11日の「戦争させない・9条壊すな！総がかり国会包囲行動」で辺野古の問題をアピールする大き  
な横断幕が掲げられた。参加者は7000人と発表された。



アベノミクスの化けの皮が剥がれ、外交無策で行き詰まり、党利党略・政権維持を唯一の目的にした大義なき衆議院解散が取り沙汰され、600億円とも言われる税金が選挙で浪費されようとしている。こんなことが許されるのか。そんな声も多く聞かれた。とにかくこんな政権は退場してもらわなければならない。正門前のアピールでは辺野古の基地建設を許さない実行委員会からの訴えもなされた。16日の県知事選挙の結果を受けて、22日14時から官邸前で、辺野古の新基地建設の断念を求める行動が呼びかけられた。多くの参加を！

## 官邸前で 300 人が抗議！(11/23 の記事)

22日の官邸前抗議行動には約300人が参加した。16日の沖縄県知事選挙の圧勝、そのわずか3日後の沖縄防衛局による工事再開、シュワブゲート前行動中での85歳のおばあさんの負傷という緊迫した中での安倍政権に対する抗議行動。怒りのシュプレヒコールを浴びせ、工事の中止を訴えた。三線演奏、唄とカチャーシーもあり、大いに盛り上がった。申し入れ書提出の間、辺野古の海をイメージした青い布とプラカードの中を、ジュゴンが泳ぎ回るパフォーマンスが繰り広げられた。緊急カンパも10万円以上集まった。



電話による辺野古現地からのアピールはヘリ基地反対協代表の安次富浩さん。ゲート前行動で負傷者が二日連続出たことに抗議して「殺人鉄板」の上に、約100人が座り込んだ。しかし、県警機動隊は排除できなかったようだ。一方、海上では浮き桟橋が撤去され、海保のゴムボートも陸揚げ、フロートも引き上げられた。衆議院選挙に突入したので工事を中断するのではないかという見方も出ている。もちろん油断はできないが、政府・防衛省が追い込まれているのは間違いない。(その後、海上作業は年明けまで中断している。)

## 「仲井真の逃げ切り」「安倍の食い逃げ」許さない！(12/2 の記事)

今年最後の防衛省前抗議行動には約80人が集まった。



沖縄現地からは山城博治さんが電話メッセージを寄せた。山城さんは仲井真知事が12/9の任期内に埋立変更申請の承認をする動きがあることを怒りを持って糾弾し、これをさせないために4日に県庁包囲行動を展開することを明らかにした。「仲井真の逃げ切りを許さない！安倍の食い逃げを許さない！」これが沖縄の人々の思いだ。

報道では11/28に仲井真が安倍官邸を訪れ、密談を交わしている。「自発的隷従」は最後まで変わらないのか。(12/4の県庁包囲行動には平日の昼にもかかわらず約2000人が結集した。しかし危惧したとおり仲井真知事は退任4日前の12/5、埋立変更申請3件の内の2件を承認してしまった!)

## 年初の防衛省行動(1/6 の記事)

5日、2015年最初の防衛省前抗議行動が展開された。



参加者は100人ほどいただろうか。辺野古の海上作業がきょうから再開されるのではないかとマスコミ情報が流れていたが、結果的に防衛局が動き出すことはなかった。沖縄現地からヘリ基地反対協の安次富浩さんから力強いメッセージが寄せられた。

きょうの沖縄タイムスの一面トップは「自民、知事対話拒む」と題して、安倍官邸に続いて自民党が翁長新知事との対話を拒否する姿勢を露わにしたことを伝えている。(中略)選挙で選ばれた自治体首長と面会もできずに逃げ続ける政権与党。政治の劣化も極まれば。安倍政権と自民党は、2014年の沖縄政治の巨大な構造変動の意義をまったく理解していないと言わざるを得ない。(後略)